

協働の取り組み

「釈迦内サンフラワープロジェクト」

- 元気のみなもと!
秋田県立大館工業高等学校機械科のみなさん
- 震災を考える「できることから始めよう」
復興支援②「復興に向けて」
- 学びをつなぐ「パソコンサークル5団体の交流」
- 情報あらかると
- 憩うところ & イベントカレンダー

くんだな

2

2012



私たちにできること

「高校生が書道パフォーマンス」

書道パフォーマンスは、能代北高等学校書道部10名が「Rising Sun—日進月歩」、秋田北鷹高等学校書道部6名が「東北 & 秋田を元気に!!」と、東日本大震災復興を願った実演テーマに、見事なチームワークと躍動する姿を披露。

能代北高は、人気アーティストの歌詞を引用し、前向きに希望を持てるよう、自分たちの元気で勇気づけられたらとの想いを表現。復興支援チャリティーソングを用いた北鷹高は、「光」と「未来」の文字に、明るい光が差し込むようにとの願いを込めています。

この実演は「高校生に学ぶ—地域・元気力・UP研修会」(秋田県生涯学習センター・北秋田市教育委員会主催)で行われました。(関連情報を7ページに掲載しています。)



すべては未来を担う子どもたちのために ～協働の取り組み「釈迦内サンフラワープロジェクト」～

大館市の釈迦内地区まちづくり協議会(実行主体「釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会(日景賢悟実行委員長)」)では、学校、地縁団体、企業などと協働で「釈迦内サンフラワープロジェクト(通称:釈迦内SP)」を展開。地域の未来を、子どもと大人と一緒に思い描いて取り組んでいます。

“すべては未来を担う子どもたちのために”をコンセプトに推進している「釈迦内サンフラワープロジェクト」。このプロジェクトは、小学生を中心に、地区でひまわりの花を栽培し、種から搾取した食用油を加工、販売する一連の流れに、多くの住民が関わることで地域の活性化を目指しています。

協働のきっかけは、大館市立釈迦内小学校(五十嵐経校長・児童数300人)が中心となって取り組んだ「元気いっぱいひまわり油プロジェクト」が、平成22年度、東北経済産業局主催「地域の魅力発信アイデアコンテスト」の小中学校部門の最高賞である「大賞」を受賞したことです。小学校の活動に賛同した地域が、釈迦内地区まちづくり協議会内に実行委員会を創設し、釈迦内小学校を核に、縦軸として向陽幼稚園と大館市立第二中学校、横軸として地域のまちづくり協議会や婦人会など、釈迦内地区一体となって取り組むことになりました。

プロジェクトは、「釈迦内＝『ひまわり』を地域ブランドとして再構築」「小学校を核にした『実践的キャリア教育』のさらなる推進」「釈迦内地区の地域振興と、将来の観光振興の両

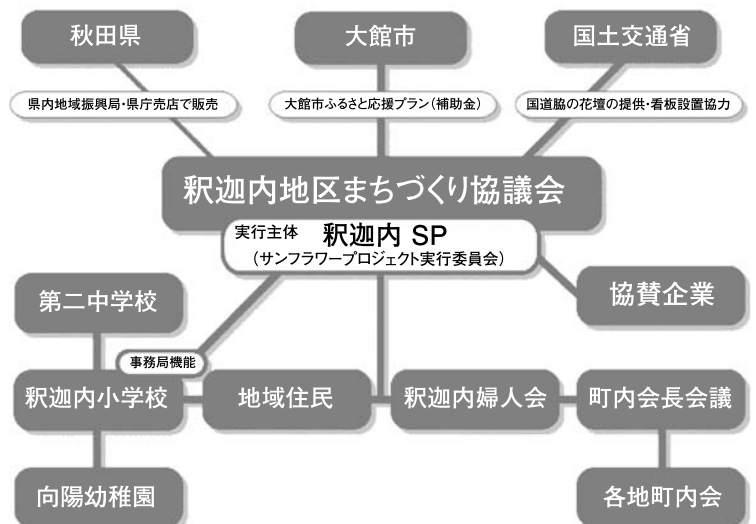
立を図る」の3つの目的を掲げ、委員がそれぞれの役割を担い、目的の達成を図っています。

実行委員会は、定期的に会議を開催し、地域のコンセンサスと協力体制を図ると共に、新たなプロジェクトのエンジンとしての役割を果たしています。

小学校は、教育重点活動のひとつに位置付け、1・2年生は生活科の学習の一部に、3～6年生は総合的な学習時間の一部に活動を取り入れ、全校生徒・全教員が一丸となって取り組んでいます。

太陽に向かって咲き誇るひまわりは、「明るい未来を自らの手によって作り出そう!」とする地域住民の強い意志の象徴になっています。

釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会 組織図





小学生の取り組みと地域の支え



①**栽培**:施肥、播種、除草、追肥の作業。園児と種まき。地域住民、農家から休耕田や耕作休地の提供と栽培指導。婦人会や老人クラブなどが協力。



②**収穫**:収穫と種取り作業。保護者、地域住民、婦人会や老人クラブなどが協力。

⑦**販売**:大館圏域産業祭や地元の行事、大館市観光物産プラザ、県庁売店等、秋田駅ビル、いっとく大館ショッピングセンターでの販売活動。各主催者、行政、企業が協力。ほかにも、文化祭などでは絞った油かすから作った肥料の販売。生花店の協力により、ひまわりを観賞用に販売。

⑧収益計算

⑨次年度に向けての成果と課題



⑥**商品化**:完成したひまわり油は200ml入り約400本、100ml入り1700本。ラベルや広告等の作成やレシピを考案。中学校で、ひまわり油のお歳暮用の包装紙作成。

③**種の乾燥**:十和田の伊藤さん、大館市櫃崎にある真正ファームが協力。

④**種の選別**:電動の「とうみ」を活用。

⑤**搾油**:搾油・瓶詰め。小坂町の株式会社エコサカが協力。小学生の搾油体験にNPO法人あきた菜の花ネットが協力。



活動の輪が未来に広がる

「ひまわり写真コンテスト」を開催

「ひまわり写真コンテスト」は、小学生とその保護者が対象。夏休み中に撮影した写真には、子どもたちの笑顔が並んでいます。審査は大館鳳鳴高校写真部が協力。



小学生、保護者、地域住民が収穫・種取り

地域11カ所(作付面積1ヘクタール)におよぶ畑のひまわりを小学生、保護者、地域住民が収穫。収量が多いことから、大がかりな作業。乾燥、選別された種は約1300キロになりました。



小学生がプロジェクトの経験を生かして提案

小学6年生が「遊休農地や空き地の活用」「農産物の特産品を増やす」「特産品やイベントをもっと宣伝しよう」と、プロジェクトでの経験を

生かして、大館活性化のための提案を青少年育成推進シンポジウムで発表しました。

「釈迦内ひまわりランチパーティー」を婦人会が開催

「釈迦内ひまわりランチパーティー」は、プロジェクトで作業に携わった地域住民への慰労と、子どもと地域住民の思いが詰まった「ひまわり油」を使った料理を味わうために婦人会が主催。ホテル克蘭パレス秋北が、ひまわり油を使った創作料理の開発に協力。婦人会では、来春の取り組みに期待を高めています。

☆活動はさらに広がります。

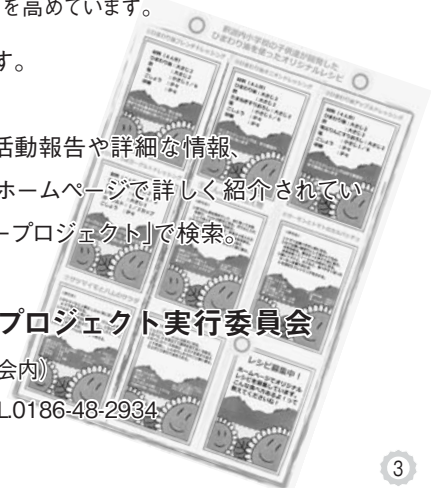
今後をご期待ください。

プロジェクトの1年間の活動報告や詳細な情報、ひまわり油のレシピ等がホームページで詳しく紹介されています。「釈迦内サンフラワープロジェクト」で検索。

釈迦内サンフラワープロジェクト実行委員会

(釈迦内地区まちづくり協議会内)

☎事務局(釈迦内小学校内)TEL.0186-48-2934



高校生が地域と交流 ものづくりの楽しさ伝える

秋田県立大館工業高等学校機械科では、“ものづくり”を通して積極的に地域と関わる取り組みをしています。これまでに幼稚園や小学校、産業祭、生涯学習フェスティバル、家庭教育支援の場や放課後児童クラブなど幅広く交流しています。

12月17日(土)、大館市北地区コミュニティセンターで行われた放課後子ども教室では、高校生8人の指導により、小学生56人がクリスマスリース作りに挑戦しました。高校生が事前に手作りした発光ダイオード(LED)電球の電飾を、当日リースに飾り付けました。はじめは指導に戸惑っていた高校生も、子どもたちに「だいじょうぶ?」「いいね!」と声をかけながら作業を進めていました。完成後は、みんなで鬼ごっこなど体を動かし触れ合うと、小学生も高校生も歓喜にあふれていました。

高校生に感想を聞いたところ、子どもが大好きという純平



さんは「遊ぶのを楽しみにしてきました。(事前に手作りした)電飾は、半田ごてを使う細かい作業で、数が多かったため大変でした。」と話していました。上手に教えていた清貴さんは「(小学生が)『教えて!』と来てくれて、話したことをよく聞いてくれました。」とうれしそう。ほかの小学校で行われたオルゴール作りにも参加していた優希さん、るりあさんは「楽しかった!また一緒に遊びたいです。」と交流を喜んでいました。

担当の草皆和幸教諭は、この取り組みが「ものづくりの楽しさを広く伝えるとともに、高校生が多くの人と関わることでコミュニケーション能力の向上につながり、先生役を務めることで責任を持って人に教える機会にもなっている。」と話していました。



NPO法人会計基準を学ぶ

1月21日(土)遊学舎にて会計・経理セミナー「NPO法人会計基準を学ぶ」が行われました(企画実施:NPO法人あきたパートナーシップ)。講師は、NPO法人会計基準協議会として係ったNPO法人あおもりNPOサポートセンターの三澤章氏(常務理事・事務局長)で、NPO法人会計基準導入に向けてのポイントの説明がありました。

NPO法人会計基準の基本的な考え方として、情報公開の重要な部分を占める会計報告で必要なことは
①市民にとってわかりやすいこと ②NPO法人の信頼性の向上につながることです。

内容のポイント ○収支計算書から活動計算書へ

「NPO法人会計基準は、情報公開の重要な部分である会計報告について統一したルールを作成し、NPO法人の信頼性の向上につなげるものです。」

○事業費も形態別分類に ○使途が制約された寄附金等は原則注記とする ○ボランティアなどを会計に取り込むなど

参加者はNPO法の改正により、平成24年度から所轄庁へ提出する活動計算書について、変更に至った経緯や変更点を学びました。

☆詳しくはホームページをご覧ください。「みんなで使おう!NPO法人会計基準」 <http://npokaikei.info/>

大館市で2月13日「NPO会計セミナー & 個別相談」が行われます。詳しくは7ページをご覧ください。

震災から早くも11ヶ月が経ち、被災地ではガレキの撤去は進んだものの、いまだ荒涼とした景色が広がっています。そうした中、昨年11月以降、飲食店や食料品店、自転車店やレンタルビデオショップなどが入った仮設商店街が各地に相次いでオープンし、復興への第一歩を踏み出しています。また、秋田市に本社がある居酒屋チェーンが店の収益の全額を岩手・宮城・福島 の3県に寄付する「復興支援酒場」を仙台や東京に開き、支援を始めています。私たちは被災地の復興に向けてどんなことができるでしょうか。



12月17日、大楯町では津波被害にあった小学校校庭に仮設商店街がオープンしました。

復興資金に協力する

被災者の方々が自分たちのまちや家、お店をめざすかたちにしていくには、何よりも資金が必要です。日本赤十字社や自治体、NPO等に寄付をするのも支援のしかたの一つですが、支援する側にも楽しみがあることが、細くても長く続けるポイントです。復旧した被災地を旅行先にして宿泊や食事をし、おみやげを買う、仙台や東京へでかけた際には復興支援酒場へ家族や友人と行ってみる、被災地域の特産品を販売するインターネットサイトやカタログを利用して贈り物をする、被災地支援のイベントで買い物をするといったことなら頻度は高くなくても続けることができそうですし、私たち自身も楽しむことができます。以前にご紹介した売り上げの一部を被災地に寄付している企業の商品を購入することもそうですが、Win-Winの関係*であるかどうかを考えてみることは、これからの支援で重要です。



気仙沼市では11月12日に復興屋台村がオープンしました。

交流を続ける

昨年、秋田県内各地のイベントでは多くの被災者や子どもたちを招いて交流事業が行われました。不特定多数のひとりとして被災地の品物を購入することも重要ですが、顔の見える間をもち、交流を続けることは被災地の方々の気持ちの支えとなるばかりでなく、災害後の復興プロセスを私たちが学ぶ貴重な機会ともなります。特に自治会や子どもたちの交流は、相互に訪れることで防災やまちづくりの知恵を共有していくことができます。

来年で日本海中部地震の発生から30年が経ちますが、私たちは秋田の子どもたちに地震や津波災害のことを十分伝えてきたでしょうか。また、この30年で秋田の防災まちづくりは進んだでしょうか。私たちの地域づくりのためにも被災地との交流を一時的なこととせず、公私にわたる継続的な交流を考えてみてはいかがでしょうか。

* winは英語で「勝つ」を意味します。「勝つ・勝つ」は自分も相手も勝つという意味で、どちらにもメリットがある状態を示しています。



渡辺千明さん

秋田県立大学木材高度加工研究所准教授。地域防災学専門。地域資源を活用したまちづくり・民家の工法と生活文化・中山間地域における地域社会の防災力・災害ボランティアの研究を行っています。



パソコンサークル5団体が勉強会と交流会を開催

12月9日(金)、大館市と北秋田市のパソコンサークル5団体が合同の勉強会&交流会を開催しました。

大館市の「大館パソコンクラブ」「アラカンサークル」「Windowsイレブン」、北秋田市の「たかのすパソコンクラブ」「シニアパソコン倶楽部」の5団体は、シニアパソコン講座などの受講生が受講後も学習していくためグループを立ち上げ継続的に活動しています。設立は平成21年から平成23年、会員10名から19名、会員年齢60代から80代、月に2回から4回実施、学習内容もそれぞれの進め方で行っています。

「たかのすパソコンクラブ」は、学習内容に地域の観光めぐりを取り入れています。デジカメで名所・旧跡を撮影し、パソコンに取り込み、ブログにアップ。会員同士でブログにアップし、コメントを入れるなど楽しみながら復習しています。さらに、一昨年から北秋田市沢口公民館のパソコン教室の講師を務めるようになりました。事務局の成田勝美さんは「社会参加ができ、生きがいになっています。楽しくないと長続きしません。」と話します。成田さんは、シニア情報生活アドバイザー※の資格を持って活動しています。

サークルの立ち上げに関わったNPO法人ITサポートあきたの佐藤文枝さんは「行くところがある。会う人がいる。やることがある。」をキャッチフレーズに支援を行っています。今回は「大館パソコンクラブ」代表の日景昭さんの発案をもとに、

パソコンを勉強している人同士が顔合わせをして情報交換することで、交流の輪が広がるように企画したものです。佐藤さんは「今回、一堂に会することにより、刺激を受けることが一番の目的。自分たちだけではなく、他にも活動している団体がいて、いろいろな人がいるということを感じていただきたいと思ったのです。今後は、各クラブで互いに活動訪問したり、合同勉強会ができるように支援していきたいと思っています。ゆくゆくは、仙台のシニアNPO仲間への訪問をしたいと考えています。キャッチフレーズの産みの親ですから。」と話していました。



勉強会はDVDビデオ「これだけは知っておきたい!インターネット安全教室」(著作:経済産業省)を活用し、セキュリティ対策について学びました。

※シニア情報生活アドバイザーは、養成講座後に資格認定を受けて、シニアへのパソコンやインターネットなどの普及活動を行っています。

第6回あきたスギッチ ファンド助成団体決定!



1月22日(日)、秋田市の遊学舎で、第6回あきたスギッチファンド公開審査会が行われ、採択団体が決定しました。

【冠ファンド「三国こども震災支援」30万円コース】

○事業名(団体名)○秋田県内在住被災家族支援活動(自然あそび親子サークル Akitaこどもの森)

【分野指定ファンド震災支援30万円コース】

○被災地産業復興支援(秋田大学復興支援団体 AKITAID)
○「3.11鎮魂祭」及び「全国への感謝祭(3.12)」(仮称)
(地域活性化集団)

【本ファンド10万円コース】

○牛島つどいの家(牛島つどいの家)○繋げよう!秋田

の民話から地域の輪(紙芝居グループ「昔々な」)○スマイル・サロン&脳力トレーニングの会(心のキャッチボールの会)○役立つ子育て・孫育て講座(一般社団法人秋田県助産師会)

【本ファンド30万円コース】

○いのちの総合相談会(NPO法人蜘蛛の糸)○聴覚障がい理解啓発事業(秋田県聴覚障がい児を持つ親の会)○ちび馬と遊ぼう!~障がい児の体験支援~(ちっちゃいもの倶楽部)○孤独・閉じこもり予防のふれあいの居場所開設(ワンディシェフの店)○仲小路Jazz Impression(千秋公園Jazz Impression実行委員会)

※詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.akita-kenmin.jp/akita-npo-fund/>

情報あらかると

イベント情報

大館市

信用力がアップする NPO会計セミナー

【日時】2月13日(月)10:00~12:00

【会場】秋田県北部男女共同参画センター
(大館市宇馬喰町)

【内容】NPO法改正により、今までと経理の実務の何をどう変えたらいいの?にポイントを置き、わかりやすく説明します。講師は税理士の浅利大造氏(税理士法人清和)。

【定員】20名(定員になり次第締切)

【参加費】無料

☎申込:NPO法人秋田県北NPO支援センター
TEL.0186-49-8553

能代市

ぱれっと 番外編

CAPワークショップ

【日時】3月3日(土)13:00~15:00

【会場】能代山本広域交流センター(能代市宇海詠坂)

【内容】子どもがいじめ・誘拐・性被害などのあらゆる暴力から自分の体を守るために何ができるかを考える人権教育プログラム。今回は小さな子どもを持つ保護者が対象。

【定員】30名(定員になり次第締切)

※託児あり(要予約2月25日まで先着順)

☎申込:能代おやこ劇場

(火・金 10:00~12:00)TEL.0185-54-5877

秋田市

チャリティー

春山トレッキング

【日時】3月10日(土)10:00~15:00

【場所】秋田駅東口出発 (9:00)~遊学舎
(9:20)~秋田県健康増進交流センター
ユフォーレ(9:50)

【内容】ユフォーレから岩谷山登山(約1時間)

【対象】中学生以上

【定員】50名(3月5日締切、定員になり次第締切)

【参加費】3,000円(傷害保険・昼食・入浴・スギッチファンドへの寄付を含む)

☎申込:NPO法人あきたスギッチファンド
TEL.018-839-8941

北秋田市

いのちのコンサート

【日時】3月11日(日)13:00~15:30

【会場】北秋田市文化会館(北秋田市材木町)

【内容】震災から1年。命の大切さ、故郷を想う気持ちを歌や朗読を通して発表。藤本佳夫さん(精神科医)のおはなしと歌・その他3団体による朗読と歌

【参加費】無料

☎精神保健福祉ボランティア「れもんの会」
(主催)TEL.090-3645-6520(代表/高坂)

秋田市

アルヴェ市民活動支援連続講座

はじめよう、ファンドレイジング。

~ファンが増え、元気と資金が集まる発信をしよう!~

【日時】①3月17日(土)13:00~17:00

②3月18日(日)9:00~15:00

【会場】秋田拠点センターアルヴェ

①1階音楽交流室D ②4階洋室C

【内容】ボランティア・NPO活動のための、支援と資金が集まる情報発信などについて学ぶ2日間の講座。講師は鶴尾雅隆氏(日本ファンドレイジング協会常務理事・事務局長)

①はじめの3歩(「伝える」メッセージ力を高める/NPOの財源戦略の本質を知る/思わず支援したくなる。フックのかかる仕掛けを学ぶ)②社会全体のトレンドを知る(新しい潮流)/個人のプレゼン力を高める/自分たちのアクションプランを考える

【定員】30名(定員になり次第締切)

【受講料】無料

【主催】秋田市民交流プラザ管理室

☎申込:市民交流サロン

TEL.018-887-5312

助成金情報

2012年度(第10回)

ドコモ市民活動団体への助成募集

【助成対象活動】「子どもを守る」をテーマに子どもたちの健やかな育ちを応援する次のような活動○不登校・ひきこもりの子どもや保護者に対しての精神的・物理的な支援、復学・社会的自立支援活動○児童虐待やDV、性暴力などの被害児童・生徒を保護・支援する活動○非行や地域犯罪などから子どもを守るための支援活動○子どもの居場所づくり○軽度発達障がいを持つ児童の支援活動○上記以外での視点に立った活動テーマに相応しい支援活動

【助成金額】総額2,500万円予定(1団体あたり50万円標準額とし、200万円まで)

【応募期間】3月30日(金)必着

☎NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンドTEL.03-3509-7651(平日10:00~18:00 土日祝除く)

<http://www.mcfund.or.jp/>

お知らせ

「田んぼの生きものハンドブック」が出来ました!

「田んぼの生きものハンドブック」は、田んぼの生きもの図鑑シリーズの最新版です。これまで作成した生きもの図鑑をホームページで公開しています。

☎社団法人地域環境資源センター

TEL.03-5425-2461

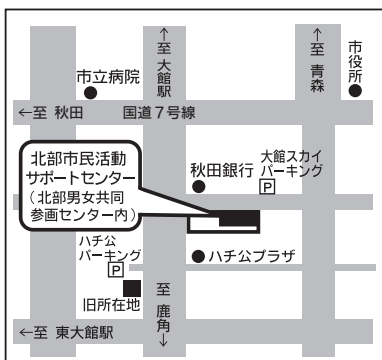
<http://www.jarus.or.jp/>

※(社)地域環境資源センターは、(社)農村環境整備センターと(社)地域資源循環技術センターが合併して発足しました。

☆表紙でご紹介した高校生の書道パフォーマンスでは、縦4^ひ、横5^ひの紙に、能代北高は「どんなながい道だとしてもいつかたどりつけるはず 確実に歩いてく この足で So, Rising Sun 陽はまたのぼってゆく 夜明けはそばに来てる」、北鷹高は「胸躍る大好きな舞台上に みんなで駆け上がり 新しい夜明けを信じて 今こそ立ち上がり 泣き濡れた日々や出来事を 嗚呼 永遠に忘れない 夢溢れる笑顔の人生をもう一度取り戻せ 光 ニッポンの元気な 未来 みんなで立ち上がり」とメッセージが描かれました。作品をご覧になりたい方は、北秋田市中央公民館(TEL.0186-62-1130)にお問い合わせください。

日	月	火	水	木	金	土
2/12 ◎十和田	13 【NPO会計 セミナー】(P.7)	14 ◎	15 ①②	16 ◎	17 ◎	18 ◎花輪
19	20 ◎峰浜	21 ◎	22 ①◎十和田	23 ◎	24 ◎	25
26	27	28 ◎◎花輪	29 ①	3/1 ◎	2 ◎◎十和田	3 【CAPワーク ショップ】(P.7)
4	5	6 ◎	7 ◎能代	8 ◎◎花輪	9 ◎	10
11 ◎花輪 【いのちの コンサート】(P.7)	12 ◎ニツ井 ◎八森 ◎十和田	13 ◎	14 ①◎八森	15 ◎◎十和田	16 ◎	17 【はじめよう、ファンド レイジング】(P.7)

- ◎【三種町】おしゃべりサロン「縁側で日なたぼっこ」(八竜どうもの会) ◎三種町保健センターTEL.0185-83-5555
(三種町八竜農村環境改善センター)13:30～15:30
- ◎【能代地区・ニツ井地区】ほっとサロン(サポートグループふれあいのWA) ◎能代市保健センターTEL.0185-58-2838
(能代地区/山本地域振興局県民交流サロン)13:30～15:30 (ニツ井地区/ニツ井公民館)9:00～12:00
- ◎【花輪地区・十和田地区】ふれあいサロン ◎鹿角市健康推進課 健康増進班 TEL.0186-30-0119
(花輪地区/鹿角市花輪)9:30～11:30(十和田地区/鹿角市十和田)9:30～11:30
- ◎【八森地区・峰浜地区】陽だまりの会「しーがる」「らべんだー」 ◎八峰町福祉保健課 TEL.0185-76-4608
「しーがる」(八森地区:八峰町文化交流センター「ファガス」)13:30～15:30
「らべんだー」(峰浜地区:高齢者多目的集会施設「はつらつ苑」)13:30～15:30
- ◎【北秋田市】サロン「あんず」(精神保健福祉ボランティア「れもの会」)◎TEL.090-3645-6520(代表/小坂和子)
(北秋田市交流センター)11:00～14:00
- ◎【上小阿仁村】みんなの茶の間 ◎上小阿仁村保健センターTEL.0186-77-3008
(上小阿仁村・旧小沢田小学校)10:00～15:00
- ◎【藤里町】コーヒーサロン「よってたもれ」(心といのちを考える会) ◎事務局TEL.0185-79-1522
(藤里町三世代交流館)13:30～16:00
- ◎【大館市】がんサロン(大館地区がん患者友の会「大館虹の会」)◎TEL.0186-42-4388(代表/土門昭夫)
(大館市立総合病院)13:00～16:00
- ◎【小坂町】お茶っこサロン「一休さん」◎みんなのお家「だんらん」TEL.0186-25-8020
(小坂町)9:00～13:00



<編集後記>子どもや高校生と地域住民が協力し合う取り組みは、笑顔と活力にあふれています。継続的に関わると感じました。(あお)



『ひとだすな』には、人と人が願いを共感し、協力し合えたらという想いが込められています。

平成24年2月10日発行
発行：秋田県企画振興部地域活力創造課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
TEL.018-860-1245 FAX.018-860-3873
編集：北部市民活動サポートセンター
〒017-0842 秋田県大館市宇馬喰町48-1
TEL.0186-49-8553 FAX.0186-49-8589
<http://www.akita-kenmin.jp/north-support-center/>
E-mail anec1@io.ocn.ne.jp

○北部市民活動サポートセンターは秋田県から委託を受けて特定非営利活動法人秋田県北NPO支援センターが運営しています。○この印刷物は1,500部作成し、印刷経費は1部当たり23.3円です。